

テーマ：「豊かな交わりのある共同体を目指すために」

No.	サブテーマ	分かち合い内容
1. 生活の中 の祈り	<p>▶ わたしたちは、日常の生活や活動の中で神の存在と恵みを身近に感ずることがあると思います。</p> <p>▶ 最近身近な体験の中から、どのような時に神を感じましたか。それを分かち合いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 朝起きてロザリオをするとリズムになる。 • 毎日祈っていると習慣のようになり、祈らずにはいられなくなる。 • 聖書を開くようになると、その日に必要なメッセージをいただく。 • 月一回の黙想会が、祈りのリズムになっている。 • 夫婦で祈る時を希望とし、大切にしたい。 • 祈りは毎日の神様との挨拶です。 • 神の存在を身近に感じた時 • とても不安な心でいた時に、司祭の按手で不安がなくなり、安心のうちに • 手術を受けることができた時。 • 求道者の顔が明るくなったり、姿を見ていると、その人の中に、神の存在を感じる。(共同体の祈り) • 祈りが習慣的になっている。 • 習慣でも祈るのには・・・と心が痛む。 • 祈ろうと思っているが、流れてしまう。 • 待降節の決意：こころを込めて(集中できるまで)毎日、天使祝詞を唱える。できそうもない大きなことは言わないで実行。 • 自分の中に神を感じない。分かち合いが苦手。ただし、偉大な力が働いているのは感じる。 • 身近な生活の中で、予期せぬことが現実になると神を感じる。 • ミサや祈りが生活に安ど感がある。 • 祈り、御聖体、御言葉、交わりを大切にす。
2. ミサを豊 かにする 共同体	<p>▶ ミサはキリスト者の生活全体の中心です</p> <p>▶ ミサを豊かにするためには、あなたはどのように参加しようと思えますか。</p> <p>▶ また、ミサについて(朗読、動作、歌、音楽等)感じていることを、ご意見も含めて分かち合いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ミサに与ると心が清められ落ち着き、心がきれいになる。 • 御聖体は自分のためだけでなく、他の人のために生かす必要がある。 • 御聖体をいただくことで私の中にいらっしゃったイエズス様に何でも願い、すべてをゆだねる。 • 美しいミサになるように。 • 朗読：もうすこしゆっくり、一呼吸おいて「神に感謝」 • 歌：できるだけみんな歌う、お知らせ、歌の本が足りない。 • マナー：聖堂内の私語を慎む、子供にもミサに与るマナーを教える努力と工夫を • できる限りミサに与る：生活との両立、人生のスパンで見ても、教会に行きたくても行けない時期もある。 • 今来ていない人の背後にあるものを考慮して、いつ来ても、溶け込めるように受け入れる。 • 信徒同士のつながりを断たない。 • ミサの役割を分担すると精神的にプレッシャーがあるが、喜びが大きい。 • 子供の侍者と大人の侍者にはそれぞれに良さがある。 • 子供部屋の中に、お祈りを先導する人が必要ではないでしょうか。 • 思いを祈りとする。 • 祈りを行動に移す。

No.	サブテーマ	分かち合い内容	
3. 宣教できる共同体	▶ すべての人に福音を告げ知らせることは、教会の信者の使命です。	<ul style="list-style-type: none"> • 人とつながる。 • 人と繋がりながら、螺旋（スパイラル）のように共に高め合いながら生かす。 • これ自体が神のわざそのもので聖霊の働き、助け 	
	▶ わたしたちは一人ひとりが日々の活動を通して、宣教の使命を果たしているでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> • このうちには必ずイエズス様がともにいて、強め、助け、癒してくださる。 • 個人的なつながりを大切にする。 • さびしさや、心細さの中で、求められたときに共にいて欲しい人と共にいる。 • 未信者の人からも相手のよいところを肯定的に認める。 • 特に家族の場合、信仰を押し付けない。 	
	▶ 宣教するには何が必要と思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> • 困難を感じること：相手の立場、事情、心情を加味して対応する必要がある。 • 種まきとして、教会での結婚式、葬式の際に、歌、説教を未信者にわかりやすく伝える。 	
	▶ また、宣教について、困難と感じたり、実施したい、実施している等の経験について分かち合いましょう。	<ul style="list-style-type: none"> • 神様からの促しがあった時、信仰宣言できるように普段から勉強し、自分を高めておく。 • 信者の使命、日々の活動、宣教するには、困難さと実施経験 • 同じテーマで外国籍の人々にも、分かち合ってもらいたい。理由は、私たちは、彼らの思いや望みを聞かせてほしいからです。 • あいさつ：日本語でよいから（言語をきにせずに）話しかける。 • ミサ：多国籍のミサ（各国語）に参加してみましょう。 	
	4. 多国籍教会を目指す共同体	▶ カトリック教会は国際的な多国籍の団体です。	<ul style="list-style-type: none"> • 共同作業を呼び掛ける。(掃除、お茶当番等)(可能であれば地区集会にも参加してもらう) • それぞれの国の人が集まってコミュニケーションをとる。
		▶ 文化・習慣・言葉の違いを超えて、イエス・キリストにおいて一つに集まるのが教会です。	<ul style="list-style-type: none"> • 多国籍の方が入っている。それはとれもよいことなので続けてほしい。 • 集まる時は名札を付ける。 • 多国籍の方々と年2回位ミニバザー開く。 • いつもキリスト中心に考える。すべての人の中にいるキリスト様を見る。一つになるためにはキリスト中心の生活をすること。
		▶ いま私たちの教会は多国籍教会に取り組んでいます。更に豊かな交わりのある共同体を目指すには何が必要でしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> • 典礼の中に多国籍の方も入っているのでよい。(第2朗読) • 多国籍の方への支援は自分の問題である。やれる範囲でキリスト者としてやるのは当然。 • 各地区に多国籍の方々を把握して、ミサだけでなく、地区集会、掃除、お茶当番など一緒に行う。
		▶ 必要と思われることについて分かち合いましょう。	<ul style="list-style-type: none"> • 教会は行事ベース、連絡網を作成する。現在進めている名簿の作成を急ぐ、地区へ配付し共有する。 • 特に地区の交わり不足で連絡網がない。所在と顔が不明、教会掃除への参加がない。地区別の話し合いがない。文化交流が限定的、生け花、お茶、盆栽、料理。 • 地区集会で交わる方法と機会の拡大。地区内交流の課題、場所、時間、経費 • 地区での実績検討と展開、地区長会議でまとめてはどうか。 • 来年の方針と長期方針。 • 日本語教室、地区集会の支援、場所、経費